

CONTENTS ◆春のつどいレポート◆おくさわ今と昔◆環境と調和した住まいづくり◆グリーンサムのお庭拝見 ◆樹と人と◆会からのお知らせ

春のつどいレポート

おくさわコンサート♪ソプラノの歌声

環境と調和した住まいづくり



■ ■ ■
5月17日の土曜日の午後、奥沢東地区会館で「土とみどりを守る会・春のつどい」を開きました。雨模様のあいにくの天候でしたが46名の参加者がありました。

第1部の奥沢コンサートでは、栗原愛子さん・未和さんのすばらしい歌声を楽しみました。誰もが馴染みの深い文部省唱歌の「鯉のぼり」や「茶摘み」千と千尋の神隠しで記憶に新しい「いつも何度でも」皇后陛下の詩に山本正美さん(奥沢在住・4月死去)が曲をつけた「ねむの木の子守唄」など、日本の歌曲を10曲、「夏は来ぬ」「みどりのそよ風」はみんなで歌いました。

お二人で伴奏を交替しながら歌ったり、弾きながらデュエットをなさったりお忙しかったのですが、愛子さんのしっとりとした情感豊かな歌声と未和さんの若いまるやかな歌声が、あたたかくやさしく聴く者の心に染みとり、快いあわせの時を過ごしました。



コンサートの後のティータイムのお菓子は、世田谷区民営福祉作業所の

「のぞみ園」の人々が作ったクッキーでした。電子ピアノは自由が丘の精琴堂楽器店からお借りしました。

■ ■ ■
第2部の前に土とみどりを守る会の第1回総会を行いました。会が生まれてから5年を経て世田谷まちづくりファンドの助成が終り、いよいよ4月から会員の会費で運営する組織になりました。会則・役員人事・活動計画・予算案が拍手で可決されて、新しい会が発足しました。そのあと引き続いて第2部に入りました。

昔のこと

奥沢2丁目 浮田基信

私は大正13年の暮、小学校の1年生のときに今の土地に引っ越して来ました。前年3月に目蒲線が開通した直後でした。当時奥沢駅の南側には商店も並んでいましたが、駅から北へ向かっては、左側は神社までは広い明電舎の野球グラウンドが占め、右側は車庫、変電所に次いで蕎麦屋と文房具店が並んでいただけだったと思います。3学期から八幡小学校に通いました。教室は二階建校舎に1、2階合わせて6教室だけで、各学年1学級でした。別棟の平屋に職員室、裁縫室と標本室があり、標本室には人体模型などがあって怖かった記憶があります。

家の近傍では一戸の敷地面積は概ね200坪(660m)ぐらいもありましたが、家は殆ど平屋で、塀は主にひばの生け垣でした。当時各戸に通じていたのは電気だけで、水道がなかったので、大概どの家も井戸を掘り、大きなタンクを高く設置して家の中へ配管していました。我が家では台所に手動ポンプがあり、子供の私も窓の外のタンクを見ながら、溢れるまで作動させたものでした。商店は近所には全くなかったのですが、生活は何軒かのご用聞きでほぼ間に合っていたようです。私も菓子屋さんのご用聞きが台所でサンプルの箱を広げるのを見るのがたのしみでした。

そう言えば、現在の2丁目33番地や34番地の区画には、東西に敷地を分ける南北方向の小径がありましたが、各戸のお勝手を廻るご用聞きのための地主さんの配慮だったようです。3年の2学期終了後、父の勤務の都合で地方に移りましたので、八小在籍は満2年だけでした。その後、昭和2年8月に東横線の渋谷／丸子多摩川間が開通し、自由が丘が急速に発展しました。九品仏川から北側の広い田圃やめだかや小えびのいた小川も忽ち消え失せ、九品仏川自体も自然の小川から直線的なドブ川に変わってしまいました。今、その川も緑道になり、上に植えられた桜も今や大木です。私も随分長生きしたものだ、つくづく思うことがあります。

柳と共に

奥沢2丁目 菅井雅子

この地に移り住んで十年が過ぎ、やっと奥沢やまわりの町並がわかるようになりました。新居で迎えたお正月、玄関を飾ろうと小さな花瓶に松、菊、金や銀でお化粧された柳の小枝を生けました。その後花は枯れてしまい、水だけを取り替えていました。半月位してもう捨てようかと思い、花瓶から抜いてみると芽が出ていました。急にいとおしくなり「早く新しい土地に慣れる記念になる」と思い、庭の片すみに植えました。

実は、柳の枝がこんなに早く成長するとは知りませんでした。切ってもすぐに、青々とした葉が出てきます。二年ほど前の冬、大きくなりすぎたので幹だけ残して枝を全部切ってしまい、後になって枯れてしまうかと心配しましたが、春には元気一杯枝がはり、すぐに噴水のように四方八方おいしげってきました。本当は、公園の池のほとりに大ききたれさがる柳のようにしたいのですが、小さな我が家ではそういう訳にもいきません。それに家の前を通る人にも迷惑で…

夏、長く伸びた枝を何本か束ねて、クリスマスのリースの台を作ります。これを友人にさしあげると、喜んで下さいます。いつもなら厄介者の枝でも、役に立つと思うと余り粗末に出来ません。今度は花かごなど編んで、なるべく捨てないで利用しよう。九品仏川の遊歩道からゆるい坂を登る道、上からおおいかぶさる枝にたれさがる葉、何ともいえない愛着を感じるのは私だけです。これからも大切に育てていきたいと思っています。

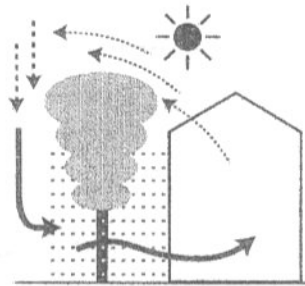


街並み選奨より 2丁目30-5 平井邸

今住んでいる家を住みやすく快適にしようー
というお話から始まりました。

同じ条件の場所に長時間あるものは同じ温度なのに、金属は冷たく感じる。物理的温度と体感温度は違うのです。人はクーラーの温度にこだわるが、温度設定で調整しなくても体感的に涼しくすることができます。扇風機で体温が奪われれば涼しくなる、湿度が低くなれば涼しく感じる、トンネルの中で涼しいのは冷たいトンネルの壁が体温を奪っているから。これらの例で分かるように《涼しい環境は作り出すことができる》のです。

その事例として「経堂の杜」の屋上の緑化(庭園)や池(雨水を循環させる水の浄化装置)の例がスライドで示されました。木が一本あるだけで日向側は空気が軽くなって水分が上昇し、日陰側は重くなって下降します。水1gの蒸発で空気から600カロリーの熱を奪うと云われます。この北側の冷気を家にとりこめるようにします。(図1)



(図1)

南側の木は熱線を遮るが、家の周りのものから発せられる熱線(アスファルト道路など)が暑さをつくっているため、カーテンをひいても輻射熱はしぶとい。そこでスタレをかけると65°が40°に下がった。更に霧吹きで水の膜をつくるともっと下がったが、この条件を続けるために緑の壁をつくったそうです。そして現実にヘチマや西瓜の蔓が3階まで伸びて涼しい緑の壁をつくっている快適な様子がスライドで紹介されました。この壁によって、外の気温が36°の時1階は24°、2階は26°だったそうです。《家の外を涼しくすれば家の中は涼しくなる》事を理解しました。スタレも緑の壁も開口部から離して設置します。

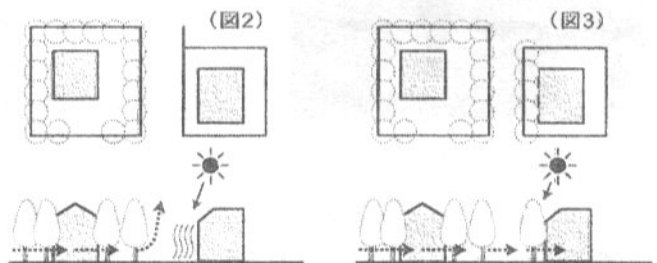
《昔は「環境共生」は特別なことではなかった》狭い範囲の中で集落と山地の気候のちがいがスライドで示されました。山には雪があるのに、集落はお互いの家と木がかもし出す暖かさによって雪が無い。又沖縄の備瀬の住宅は、各家の生け垣の木が防風林の役目をして生活に欠かせない存在になっています。このように昔は家を建てるのが環境を作る行為になって、近隣との関わりが必要条件でした。住宅がコンクリートになった時、近隣との関わりはいらなくなり密閉して個々に快適性を保つようになりました。

《自分のための街づくり戦略》過去ー依存型共生・現在ー自立型孤立 これからー自立型共生 ライフスタイルも孤立していく今、街並が消えていくのは必然

です。しかし自立型から依存型には戻れないから、新しい価値観を見出さなければなりません。そして皆の希望で環境を変えていく姿勢にならなければ今後は無い、土や緑は投資と考えてほしいのです。

《自立型共生をめざした「松陰エコピレッジ」》松陰で7代続いた地主さんから土地の相続で木を残したいと相談があり、経堂に続いて環境共生型住宅を建設することになりました。古い木立をそのまま利用して自然と共生し、一部は移植して、旧母屋・現住居と計画住戸2を合せて共有価値とする。目的は「個人の利益」とし自分だけ快適な住居を建てるよりもエコロジーによる価値を売るという事で募集を開始しました。説明会に284組が参加し、15戸の契約なのに29組も申し込みがあり待機組が14になりました。コミュニティを手段として使い、ぜいたくな生活ができるのですが、仲良くなろうとして集まった人々ではないので無理をすることも無く、嫌いな人とも価値を高めるために協力しようという形です。自分本位のペンシルハウスはますます木を減らし、夏冬を凌ぎにくくするばかりです。

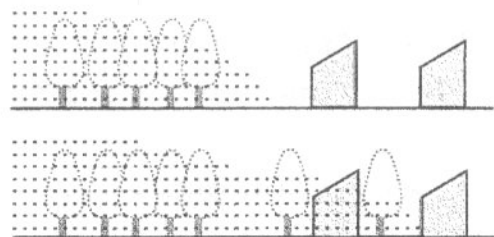
《自分が得する近隣との関係づくり》緑から溢れる涼しい空気も、道路や家がたたまっていて(図2)のように上に行ってしまうが、隣の木立を利用して自分の方にも木を植えて(図3)涼しい空気をつくり出す事が出来ます。



(図2)

(図3)

《自分が得する街づくり》公園の木立を利用して(図4)涼しくする方法です。図のようにその周囲の家が木を植えていくと、Aが得をすれば隣のBにも波及する効果があり一つの公園から周囲の家全部に恩恵が及びます。とても分かりやすく、夏に向かって私達の日常生活に工夫するヒントがいくつもあって興味深いお話でした。



(図4)

時間が一杯になってしまつて質問の時間の余裕も無く残念でした。これからの街づくりについての新しい実践例は非常に示唆に富んだものでした。(柳島)

グリーンサムのお庭拝見 Vol.11

今回は「ターシャ・デューダーが作った地上の楽園と称されるお庭に憧れています」と言う一丁目40番地の富坂家を訪問します。まず北側の塀に沿って3本の蔓バラと泰山木。西側の門の左右に黄色の花びらの端に紅色が入り開花と共に色に変化していくバラのチャールストン。紫陽花の後ろに紅葉、その上に白の一重咲きのナニワノイバラがふわっと帽子のように被さっています。その下に赤のミニバラとピンクのオールドローズ。玄関前に黄色のバラ、ミニバラ、シクラメンなどの植木鉢が並び、四季咲きのピンクのバラが屋根まで届きそうに伸びて、家の壁に絡み付いています。右に一重で鮮明な赤と黄色のコントラストの美しいカクテルが横に広がり、アーチ仕立てのオレンジの蔓バラが、優しい香りで迎えてくれます。エビネにローズマリーにホトトギス、ジャスマ

ンにクレマチスにアブチロン、酔芙蓉に椿に梅に柿に山茶花などの沢山の種類の植物に、幼い頃のお孫さんは「ジャングルみたい」と言って喜んだそうです。バラは2月に剪定前の半分の高さに切り、花からは次の花のためにすぐ取り除き、虫がつけば早期に殺虫剤を噴霧し、肥料は牛フンと化学肥料を与えて、草取りに水やりにと手入れはご自分でなさっています。

「切り花ってあまり好きではないのよ。部屋で見ると外で見る方がいいわ。最近父と同じように足もとから何が出てくるかわからない自然のお庭が好きになったのよ」静かにお庭を眺めていると心が休まります。昨年、偶然にNHKより取材されたという紫陽花を、次回にはぜひ拝見したいものと思いつつ、チャールストンに見送られて富坂家をあとにしました。

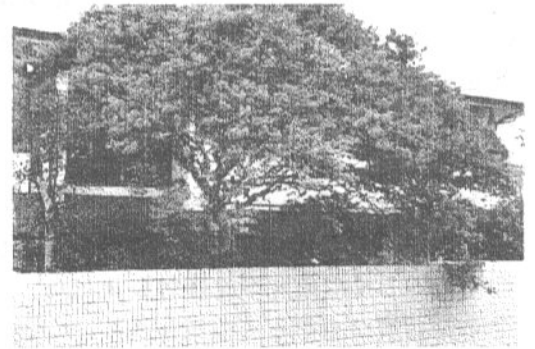
5/1記(遠藤)

樹と人と

●推奨樹木の持ち主の方に、木にまつわる話・木への思いを語っていただくコーナーです。(毛利)

ケヤキ+鶴原典子さん(奥沢4丁目12番地)

「植物の楽しみを語り合うつもりで“土とみどりを守る会”に初めて参加した私は、それぞれのお宅のさくらや榎の大きな樹木などを都会で育てるためにどんなに苦労しておられるかという、とても辛そうなお話ばかりが次々出たので、とても驚きました。そしてうちの元気な榎を、『見るとほっとする』とか『借景を楽しんでいるのよ』とか寛大に励まして下さるご近所の皆さんに、どんなに感謝しなくてはいけないかつくづく感じ、今も毎日そのことを考えながら木の下を掃除しています。」



サルスベリ+中島廣二さん(奥沢2丁目39番地)

「二十二年前から庭先にあるさるすべりを大切に育て見守っています。普通のさるすべりよりは枝切りもしないで済んでいます。虫がつくとあまりきれいな色に咲かないので、美しく咲かせるために殺虫剤を使いません。一年おきにきれいなピンク色の花が咲いています。肥料はあげすぎてもよくないし、気がついた時に与えています。」

会からのお知らせ

○土とみどりを守る会では、会員になって下さる方を引き続き大募集しています。会の活動を支える会費は111,000円です。どうぞ皆様のご協力をお願い申し上げます。お電話を頂ければ早速お伺いするか振替用紙をお送り致します。

○春のつどいで甲斐さんのお話を聞いて早速緑の壁づくりを始めた方もいらっしゃると思いますが、来年は—と思われる方には来春ひょうたんの苗をお頒け致します。緑の壁をつくるお手伝いも検討中です。

○会の仕事をお手伝い下さる方はいらっしゃいませんか。つどいのアイデア、チェリーセージの苗づくり、このニュースレターの編集など、未経験の方でもどうぞお力をお貸し下さい。お申し出をお待ちしています。

編集後記

道沿いのお宅にお願いして育てていただいたチェリーセージが赤い可愛い花を咲かせて、2丁目の道に彩りを添えています。私達のささやかな努力が奥沢のまち全体に拡がって、まちの道路がすべてチェリーセージに彩られますように願いつつ、今年も挿し芽を育てています。

通信第12号2003.6発行

土とみどりを守る会 連絡先
世田谷区奥沢2-19-9 長瀬雅義 5729-0126
世田谷区奥沢2-41-2 柳島尚子 3718-8558